

小学生のきょうだいとの7年間

養育里父さん
体験記

◇里親登録のきっかけ◇

夫婦で養子について考え始めたころ、新聞で、里親制度に関するセミナーを発見しました。そのときに初めて「養育里親」を知り、「まずは養育里親を知ろう」と思い、妻と一緒にセミナーを受けました。

その後、里親になることを決意し、研修を受けて登録する流れになりました。



◇登録してから受託まで◇

委託の話があるまで研修など受けながら待とうと思っていたところ、急に児童相談所から「2人預かってもらえないか」という連絡が来ました。小学生のきょうだいということでした。

連絡がきたときには、突然で驚いたのと、子育て経験のない自分達が小学生2人の養育なんてできるのか！？という思いで、とても迷いました。そんなときに背中を押してくれたのがお姉さん(妻の姉)でした。お姉さんは一緒に考えてくれ「やってみなよ。私もフォローするから」と言ってくれました。その言葉に背中を押され、妻と私は受け入れる決意をしました。



それからは児童相談所で数回面会をし、お試して1泊2泊、我が家に泊まりにきて、その後受け入れとなりました。

◇里子と実家庭◇

里子がうちに来た時には2人とも小学生だったので、生みの親についても、今置かれている状況についてもある程度は分かっていました。ですのうちにきてからしばらくは「早くおうち(実家庭)にかえりたい」と言っていました。私たちは「まあ、そうだよ」と思いながらも、実際には帰ることのできない状況でしたので、実家庭に帰れない現状について、児童相談所の担当職員さんから話しをしてもらっていました。

そのような状況だったので、家での呼び名も「おじさん、おばさんでいいんだよ」と伝えていました。

◇里子との生活◇

2人が我が家にきたのが小学校の夏休み中だったので、あれよあれよと新学期が始まりました。子どもとの信頼関係を築くのも大変でしたし、学校が始まってからは、傘を折られたりと、いじめられることもあれば、友だちにケガをさせて一緒に謝りにいくこともあり、本当に大変な毎日でした。



だけど、一緒に泣いたり笑ったりしながらも日々、子どもの成長する姿を見る事ができるのはとても嬉しく、一番のやりがいでした。そして無事に小学校を卒業し、中学へ進学しました。

小学校の時には地域との繋がりも強く「〇〇さんちの〇〇ちゃん」という周囲の認識でしたので、里子も私たちの姓（通称姓）で過ごしました。中学校になると、地域も広がり「〇〇さんちの」という意識が薄くなるので、そのタイミングで、通称姓ではなく、実姓に戻す事になりました。家の表札も2つになりました。

◇養育への思い◇

子どもと関係を築くまで、様々なことがありましたが、私たち夫婦で大切にしてきたことは「子どもを優先に考える」ということでした。喧嘩をすることもありましたが、子どもの気持ちを最優先にして、素直な気持ちで接すれば伝わると思い、関わっていました。

◇突然の転勤◇

里子との生活が始まってしばらくした頃、自分が転勤することになりました。転勤先は新幹線の通っていなかった頃の東京でしたので、往復するのはとても大変でした。しかし、仕事を辞めるわけにはいかなかったのが、単身赴任の形になり、毎週末は富山に帰って家族のフォローをするという生活となりました。

単身赴任は1~2年でしたが、急に里子2人の養育を一人で背負うことになった妻の負担は本当に大きかったと思います。



◇委託解除◇

里子を受け入れた時には、養育期間は全くの未定でした。数年の養育になるのか、自立までの養育になるのか、どうなるのだろうと思って生活をしていたところ、委託解除が決まりました。里子と暮らし始めて7年目のことでした。

委託解除は、実親さんの事情に合わせて決まったことでした。養育里親として里子を受け入れた以上、解除の日が来るのは分かっていたことでしたが、別れは涙なしにはできませんでした。

◇その後◇

委託解除になってしばらくした後、ひよんなことから再会することになりました。

2人は無事に成人し、それぞれの人生を歩んでいます。

私の場合は委託解除後も細々と付き合いがあり、

引き続き成長を見守ることができています。

